



学校だより

10月号

平成30年9月28日

横浜市立洋光台第三小学校

校長 皆川 誠

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/yokodai3/>

折り返し地点を迎えて

校長 皆川 誠

「暑さ寒さも彼岸まで」という言葉がありますが、今年の夏は連日の猛暑で暑さに体が慣れてしまったせい、9月は比較的涼しく感じられたような気がします。

4月の新年度スタートから半年が過ぎ、10月5日に前期終業式を迎えます。入学後は緊張気味に過ごしていた1年生の子どもたちも、学習や行事の積み重ねによって、今では立派な小学生として、日々の学校生活に溶け込んでいます。先日給食の時間に教室を訪ねたところ、年度初めには残食が多く心配していた子どもたちが、お代わりを催促している姿も多々見られ、この半年間での成長を感じることができました。1年生に限らず、2年生から6年生にとっても、年度初めや夏休み明けの9月は、新たな環境に適応したり、生活のリズムを取り戻したりするのに苦慮する傾向があります。そのような中で、日常の学校の生活を落ち着いて過ごすことができているのは、それぞれのご家庭での励ましや工夫があったからだと思います。心より感謝申し上げます。

さて、9月20日に、5年生と「ふれあいコンサート」へ出かけました。毎年のことですが、神奈川フィルハーモニー管弦楽団の迫力のある素敵な演奏を聴き、感動させられました。「威风堂々」など、子どもたちにとって馴染みのある曲がたくさんあり、演奏を楽しんでいる様子が見られました。洋三小は午後からの鑑賞だったので、午前は、パシフィコ横浜の中にある「横浜市国際協力センター」の見学をしました。ここは、「だれもが」「安心して」「豊かに」生活できる社会の実現を目指して、食糧・環境・都市問題など地球規模の課題解決に取り組む国際機関の活動拠点として設置された施設です。5年生は課題別に5つのグループに分かれて見学をしました。私は、WFP（国連世界食糧計画）の学習をするグループと一緒に話を聞きました。そこで、「世界では、9人に1人が飢餓で苦しんでいること」、「日本では、約1/3の食品が無駄になっていること」など、世界の食糧問題について学ぶことができました。5年生一人ひとりがここで学んだことをきっかけにして国際問題についての意識を高め、同じ地球に住む一員として「自分は何ができるのか」を考え、実践してもらいたいと思いました。

10月9日（火）からは後期が始まります。今月は、1、2年生の野毛山動物園へのなかよし遠足、3年生対象の洋光台音楽のつどい、4、5年生の愛川宿泊体験学習や6年生の日光修学旅行、そして、雨で延期となったケヤパ遠足と、大きな行事が予定されています。前期に培った力を発揮してそれぞれの活動に積極的に取り組み、達成感や満足感を得ることを通して、さらに大きく成長していくことを期待しています。